

**学校経営方針** 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善。

**児童の実態** 基礎的な知識はあるが、自らの学びの過程を表現することや教科横断的に既習事項を活用することに課題がある。

研究主題

**主体的・対話的で深い学びの実現  
～振り返り活動の充実と評価の工夫～**

目指す児童像

- 主** 学ぶことに興味関心をもち、自分なりの見通しをもって粘り強く課題解決に取り組む。
- 対** 自己の考えをもち、他者との協働的な関わりや事物との相互作用を通して、学びを深め広げていく。
- 深** 学びの過程を表現することによって自己の学びに意味付けや価値付けを行い、次の学びにつなげる。

目指す教師像

児童一人一人のよさや可能性を見出し、それを発揮できるように指導・助言をする教師。思考の過程を把握し、付いた力を見取り、次の学習活動につながるような評価ができる教師。

授業改善の重点

○…児童 ◇…教師  
○視点を示されなくても振り返りをする。○振り返りにつながる見通しをもつ。○◇既習事項の活用、教科横断的な視点をもつ。◇発達段階や個に応じた振り返りの方法。◇専門性を生かした指導計画、提案、資料教材開発。◇児童の他者解決・全体解決への関わり方。

	低学年	中学年	高学年	
授業改善に向けた学習指導構想	<b>① 主体的な学び</b>			教科横断的に学習指導構想を生かす
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲や達成感をもてるような発問をする。</li> <li>・「めあて」と「まとめ」のつながりが分かるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の内容を使って課題解決ができるか確かめることを習慣化する。</li> <li>・「めあて」についての「見通し」をもてるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の振り返りを導入で取り上げて前時までの学びを評価する。</li> <li>・「めあて」と「まとめ」、「見通し」と「振り返り」をそれぞれつかめるようにする。</li> </ul>	
	児童が「自分なりの見通し」をもてるようにするための手立てを研究する。			
	<b>② 対話的な学び</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験したことを様々な方法で表現する体験を充実させる。</li> <li>・自己との対話をした上で他者の考えを聞くようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察や実験などの実物に触れる体験を充実させる。</li> <li>・他者との対話が成り立つように教師が関わる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題は実際に体験や実験して解決するようにする。</li> <li>・他者との対話により自分の考えはどうなったのかを表現できるようにする。</li> </ul>		
「話す」、「書く」、「聞く」全ての表現力の向上を目指す。ICTを活用する。				
<b>③ 深い学び</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・何を学習したのか自分で整理できるようにする。</li> <li>・自分の学びの成果や課題を捉えて振り返り、自己評価できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びの過程から何が課題解決に結びついたのか捉えられるようにする。</li> <li>・その時間ごとの振り返り（自己評価）と、単元全体の振り返り（自己評価）を両方表現できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学んだことをどのように生活に生かすのか表現できるようにする。</li> <li>・児童による学びの意味付けと価値付け（自己評価）に対し、教師がさらに思考の深まりを促す評価をする。</li> </ul>		
発達段階や個に応じた振り返りの指導、振り返りを深める評価について研究す				